

第2回

新宿区次世代育成支援計画起草部会

平成25年8月23日（金）

新宿区子ども家庭部子ども家庭課

○福富部会長 おはようございます。

今日は起草部会の2回目になります。手直しすべき部分は多々あると思いますので、できるだけ効率よく審議を進めていきたいと思っております。

会議の前に、前回ご事情があってお休みなされた方が何名かいらっしゃいますので、簡単に自己紹介をお願いします。

(委員による自己紹介あり)

○福富部会長 作業を進める前に、就学前児童及び小学生保護者に対する調査の回収状況について、事務局から報告をお願いします。

○事務局 今、部会長からお話がありました就学前児童及び小学生保護者向け調査票の回収状況ですが、本日23日を締め切り日として回答をお願いしていますが、現在、就学前児童保護者向け調査票の回収率が30.8%です。標本数2,500件に対して770通の調査票が回収されているという状況でございます。そして、もう一つの小学生保護者向け調査票については、標本数1,500件に対して488通の回収で、回収率は32.5%です。トータル4,000通に対して1,258通の回収で、平均すると31.5%となり、当初想定していたより低い状況でございます。先日、督促も兼ねた、調査に対するお礼のご挨拶文を差し上げましたので、それでまた返ってくるものもあると期待しているところでございます。

○福富部会長 前回は比べて大幅に減っているという状況ですが、数値は今後もう少し上がると思います。希望的目標は4割くらいですかね。

早速ですが、もう既にお手元に届いているかと思いますが、今日は、資料2から5、すなわち中学生保護者に対する調査、中学生本人に対する調査、それから青少年、これは一般的には高校生を対象にした調査、最後に若者に対する調査、この4つの調査票について検討していきたいと思っております。

既に資料1として皆さんにお配りされていると思いますが、前回の議論やその後のメールや電話等で皆さんから寄せられたご意見に対して、事務局が対応策の案を一覧表として提示しています。これにつきましても、もうこれは既に終わったんだということではなくて、「いや、自分はこういうことを言ったけれども、事務局の対応案はちょっと違うんじゃないか」とか、あるいは「こういう対応がなされているけれども、意図が違うんじゃないか」ということも含めてご検討いただければと思います。まだまだ変更する余地は残されておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思います。

それで、時間も限られておりますが、1件について20分見当で、4件あるから、それだけで80分かかるといふ単純計算、だから大体20分見当で一つずつ話していければと思います。ここで決着がつかないことは、後日事務局で検討する形にして、どんどん作業を進めていけたらと思います。

では最初に、資料2の中学生保護者向け調査票について検討します。まず表紙、これはよろしいですか。何か表紙でお気づきのところ、いいですね、何かあったらまた後で聞きます。

1ページについてはいかがでしょうか。赤字部分が前回から修正した主な部分です。そこを中心に、そのほかも含めて1ページ目はよろしいでしょうか。

次に2ページ、問6から問9-2まで、これは、前回「お子さん」という文言でははっきりしないので、「宛名のお子さん」というふうに全部統一して変えました。ここはよろしいでしょうか。

次に3ページ、ここは、特に後段、大きく手直しがあつて、赤い文字で書かれているところでは。

特に先入観を与えるわけではないんですが、問10のような形で、選択肢として1、2、3とあるのは3件法といいます。「よく話をする」「どちらかといえば話をする」「ほとんど話をしない」という3つの選択肢を選んでもらうようなカテゴリーの分け方でいいんだろうかということも、ぜひ頭に入れておいてください。問10に関しては、頻度を聞いているのは1、2、3までで、3件法になっているので、もう少し詳しく頻度を聞くようにすると良いかもしれません。例えば、「よく話をする」「どちらかといえば話をする」「余りしない」「全くしない」というふうにもう一つ加えるとかです。

○委員 中学生の場合、スマホや携帯に関わることは今、大変問題になっていますので、「インターネットで得た情報」という選択肢の中に、全てそのようなものが含まれるとすれば、それでもいいのですが、「携帯やスマホに関すること」という選択肢を追加してもいいように思いますが、いかがでしょうか。

○委員 携帯やスマホというだけでは捉えどころがないように思います。要は、ハードについてなのか、あるいは、例えば「誰とよくメールするの」ということを話題にした場合は、どこに丸をつけるのか。

○委員 保護者の方と話をすると、「うちの子は、携帯、スマホを何時間もやって大変なのよ」という話が多くて、子どもたちも、携帯やスマホの話題が非常に多いように思います。携帯やスマホについては、親子では、やる、やらないも含めて、話題の中心になっていると

思います

- 福富部会長** これは保護者向けの調査票ですから、皆さん、小学校高学年や中学生のお子さんをお持ちの方は、そんなことを聞かれて答えられるかどうかということでご検討いただければと思いますが、どうでしょうか。今、出ているのは、携帯、スマホといったあたりのことについての話題があってもいいのではないかということです。
- 委員** 後ろの設問でインターネットについては細かく聞いているので、問10の設問はこれでいいのかなと思います。
- 福富部会長** 6ページに「コミュニケーションツールについて」という項目がありますので、この設問は一応このままにしておいて、6ページの設問を見て、足りなければ、またここに加えるという形にしたいと思います。
- 委員** 問18のように、「インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン）」という文言を入れればいいんじゃないですか。僕らの認識として、やはり「インターネット」と言われるとパソコンかなという気がどうしてもしてしまう。だから、先ほどの委員がおっしゃっているように、携帯やスマホの話を含むんだったら含むし、含まないのであれば別に立てたほうが良いように思います。
- 福富部会長** 6ページの問18の「インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機器等）」という表現と合わせると整合性がとれるのでいい考えですね。
- 委員** 問10-1ですが、中学生は思春期で、家族の間でのぶつかり合いとか、例えばお父さんやお母さんや兄弟の関係とか、そういう家族のことを話したりする場合には、これだと何番に入るのでしょうか。
- 福富部会長** 家族の何を話題にするのでしょうか。お父さんの悪口とか。
- 委員** あり得ますね、特に女の子なんかは。
- 福富部会長** 家族のことについて話すという選択肢はいいですね。
- 委員** 8番の「親の友だちのこと」というのは、何を指しているのでしょうか。
- 福富部会長** 親が答えるので親ですね。
- 委員** 親が自分の友達のことを子どもに話しますかね。誰々ちゃんのパパがどうのこうのという話をしますかね。ここで聞く意味はないという感じですね。ここは、家族の話題にしたほうが良いような気がします。
- 福富部会長** そうですね。「家族のこと」のほうが、意味があるかもしれませんね。では、前回の調査で同じ設問があって、その経年比較をするということでなければ、変更したいと

思います。

それでは、次、4ページにいきましょう。

○委員 問11の選択肢として「とても楽しい」「まあ楽しい」「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」とありますが、分析をどういうふうにするのかと考えたときに、単純にパーセントをとるのであれば、これでもいいかもしれませんが、平均値を出すとか、ほかとの比較で見るというときには、できるだけ正規分布になるような形で回答できた方がいいかなと思います。例えば「とても楽しい」「どちらからといえば楽しい」「どちらともいえない」「どちらかといえば楽しくない」「まったく楽しくない」のように、ばらつきが出るような形で聞いておくと、計算しやすいかなという感じがします。この形でも悪くはないと思うんですが、もし変更可能であれば。

○福富部会長 よく問題になるのは、3件法、4件法、5件法の違いなんですね。4件法は、こちらかこちらかで、これは質の違いなんですね。3件法は、間の選択肢を入れることによって連続性が出て、真ん中の回答が多くなるということが当然考えられるけれども、でも回答は大体正規分布でいいんだという前提があると、その後の分析や数量的な扱いがしやすくなるというメリットはあるかもしれない。この調査は総じて、AかBか、要するにプラスかマイナスか、中間はないような方向で聞いているんですが、それはそれでいい場合もあるし、もう少し連続量にしておくと分析が膨らんでくるというメリットもありますね。

○事務局 前回5年前の調査との経年で見ると、やはりどちらかに回答を強いております。

○委員 経年変化を見るという目的があるんですね。

○事務局 はい、あります。

○福富部会長 経年変化を見るという目的があるときは、しょうがないですね。

○事務局 そういう事情がございますので変更は難しいかなと思っておりますが、ご意見はいただきたいですし、新たな設問に関しては配慮したいと思っております。

○福富部会長 経年的なものというのは、縛りがあってしょうがないんですね。それがなければ検討するというところで、よろしいですか。

○委員 はい。

○福富部会長 4ページがなければ、次に5ページに移ります。

○委員 2つあるんですが、問15の一番最後の選択肢の中の「健康の専門職」のところで、「助産師」が抜けているというのは、残念な感じがあります。妊娠・出産などをトータルにカバーしている職種ですので、ぜひ入れていただきたいと思います。なお、「保健師」の文

字が1文字あいているのでミスプリだと思います。

もう一点は、保健教育に関する設問です。1番目の選択肢で「避妊」というのがぼんと出ているんですが、「妊娠について」という項目はないのでしょうか。妊娠があつての避妊というのはつながりがあるのですが、いきなり妊娠を避けるというところから出ているのはどうしてかなというのを考えてしまいます。

○**福富部会長** まず最初の指摘事項の「助産師」については、追記するべきだと思います。関わりが強いですからね。

2つ目ですが、「避妊」から始まっているのですが、「妊娠」の文言を入れるべきという考えについて、いかがでしょうか。「避妊について」というのは、実は妊娠も含んでいるという考え方もあろうかと思えます。あるいは、「妊娠・避妊について」という文言にするという方法もあると思えます。

○**委員** どのようなお立場で考えて調査するのかということですね。避けたいことを明記するのか、あるいは子どもの発育や健康上、膨らみのあるものとしての保健教育なのか。

○**福富部会長** そうですね。でも、避妊については、避けたいことよりも勧めたいことですね。中学生という年齢を考えれば。

○**委員** 避けたいのは妊娠についてですね。

○**福富部会長** 中学生については、むしろ妊娠を避けたい。でも、「妊娠について」とすると、妊娠の仕組みやメカニズムということになってしまい、「避妊」は入らなくなる可能性がありますね。どうでしょうか、妊娠と避妊をひとくくりにするということは良くないですか。

○**委員** 教科書は、妊娠から入りますね。

○**福富部会長** 中学生に対する性教育では、妊娠についてきちんとやりますよね。

○**委員** はい、そこで命の尊さをやると思えます。

○**委員** 今、妊娠については小学生も教えますね。

○**福富部会長** そうですね。

○**委員** ただ、突然、妊娠するということから教育するので、子どもたちは、どうやって妊娠するのかとよく質問してくるんですよね。そういう意味では、正しい知識を教えてほしいので、妊娠と避妊の両方を書いてほしいと思います。

○**福富部会長** そうすると別項目で「妊娠について」「避妊について」とあったほうがいいですか。

○**委員** いや、併記でいいです。

- 福富部会長 併記でいいですか。では、「避妊」だけではなく、「妊娠・避妊」でいいですか。
- 福富部会長 では、6ページ。先ほどのパソコンやインターネットの設問です。ここでは一応次に進めて、また元に戻ることもありにして、7ページ。これはフィルタリングまで説明があつて、詳しく聞いていますが、よろしいでしょうか。では、8ページ、9ページ、10ページ。
- 委員 問26についてですが、これでもいいんですが、「不安がある」「ない」だけではなく、「どちらかといえば」とか「少し」みたいな選択肢を増やしてはいかがでしょうか。
- 福富部会長 少し選択肢を増やすという方向で、事務局は検討して見ていただけますか。
- 事務局 分かりました。
- 福富部会長 次、11ページの間29「新宿区は、子育てしやすいまちだと思いますか」という設問は変更できないのでしょうか。
- 事務局 すみませんが、この設問は変更できません。
- 福富部会長 最後の12ページですが、併せて今まで全部含めて何かありますか。
- 委員 7ページの間18-4「お子さんは1日平均して何人くらいの人とメールやLINE等をしますか」という設問ですが、LINEなんかだと、10人、20人になる場合がありますので、この選択肢は不適當ではないかと思ひます。
- 福富部会長 この設問は前回なかったもので、あえて加えたんですよ。
- 委員 私はLINEをやりませんが、LINEだとグループを組んで通信するので、この質問だと「6人以上」になっちゃいますよね、単純に全部。
- 福富部会長 フェイスブックなんかは、これには入らないんですか。
- 委員 フェイスブックは未成年は入れないと思ひます。でもLINEはできますよね。だから、ここは6人以上ではなくもっと増やしたらいいと思ひます。10人以上とか。
- 委員 選択肢1が「10人未満」、2が「20人未満」、3が「50人未満」、4が、というふうになっちゃうんじゃないですか、LINEだと。
- 委員 そもそも、この設問で何が知りたいかによるんじゃないでしょうか。
- 事務局 LINEは前回5年前にはなかったように思ひます。メールでのやりとりと云つたら、特定の仲のいい友達だけということでも1人とか2人、ですから選択肢も「1」「2～3」「4～5」「6人以上」でした。しかし、LINEが入ってきたために、今おっしゃられるように、大量の人数なので、これは、桁は違ふよということなんですけれども、メール

でやりとりしかしていないお子さんについては、この間いで成立する。でも、ほとんどのお子さんがLINEでやっているということになると、確かにこの設問は考えないといけないと思います。経年ですが、そのまま聞いても意味がないなら、やはりLINEは入れたほうがいいと思います。とすると、選択肢を今よりもうちょっと増やしたほうがいいということでしょうか。というのは、1番から4番までの選択肢は、メールに限られちゃうというか、LINEだったら意味がないわけですよね。それ以外に10人以上か50人以上か100人以上かという、LINE用にもう少し選択肢を増やすという形で、メールとLINEの両方あわせて聞いてしまうのか。

経年の設問ではありますが、当時はLINEがありませんから、今回の設問でLINEを入れて、意味のある設問にするには、選択肢をもうちょっと増やしたいと思います。

○**福富部会長** よろしいですか、そういう方向で。だから、恐らく「6人以上」「10人以上」ということになるんでしょうね。そうすると、「10人以上」とか「20人以上」みたいな選択肢に丸をつければ、きっとこれはLINEだろうという推測ですね。

○**事務局** 基本的にここで聞きたいのは、こういう電子機器を使うことによる友人関係、要するに特定のお子さんと仲よくつき合う関係がどうなっているのかとか、または、今言ったように、そうじゃなくて薄く大量に関わっている関係が今増えてきているのか。それによって、保護者としても我々行政としてもどういうふうに関わっていったらいいのかということです。

○**福富部会長** むしろこれは、そういうことについて、親が子どもの状況を知っているか、知らないかということが大きいんですよね。

○**事務局** それもありますね。

○**委員** 7ページの一番下の問18-7の選択肢3で、「勉強がおろそかになったり、家族とのコミュニケーションが少なくなること」とありますが、一つの文章に項目が2つ入っていますので、切り離れたほうが良いと思います。

○**福富部会長** そうですね、これでは二重の意味が含まれてしまう。それぞれ独立していますから。

○**委員** 先ほどの問18-4に戻ってすみませんが、先ほど事務局がおっしゃったみたいに、薄く大量に関わっているかどうかというのを知りたいのであれば、やはりツール分けしたほうがいいんじゃないでしょうか。

○**事務局** 最初からメールとLINEを分けるということですね。

○**委員** うちの子どもも、メールでやっている人とLINEで見ただけの人と分けています。

○委員 そういう子どもがいます。LINEには入っていないので、LINEの情報をこの子にはメールで教えてあげるといふ子がいるんですよ。要は、LINEの仲間には入っていないんだけど、この子とも親友なので、その情報はメールでLINEの情報を教えてあげるといふ子がいます。ですから、子どもはそういう使い分けをしていますので、本当にざっくりと調べるのであれば、このままの設問でいいと思いますし、一方、親がもっとしっかりと分かっていたほうがいいのであれば、ツールを分けたほうがいいと思います。でも、ざっくりでもいいかなとは思いますが。

○福富部会長 今おっしゃったように、分けるというのも一つの方法ですので、事務局で検討していただきたいと思います。

では、また元に戻ることもありといたうえで、次に「資料3 中学生本人」について検討します。

1ページはよろしいですね。2ページは、みんな赤字ですが大幅に変わったところです。

○委員 問8の選択肢を「よく話をする」「どちらかといえば話をする」「余りしない」「全くしない」に増やしてはどうでしょうか。ただ、これは、前回の選択肢は、「よく話をする」「たまに話をする」「あまり話をしない」「不明」なので、今回表現が違っているのはわざとですか。

○福富部会長 もし、前回も同じことを聞いているのであれば、基本的に同じ表記にしないと比較ができないので調べてください。

○事務局 はい。

○委員 問8-1の設問で、8番「親の友だちのこと」という文言は、「家族のこと」に変更するという認識でよろしいんですよね。子どもに聞く場合もそうなりますか。先ほどの保護者用の調査票と同じ部分ですが。

○福富部会長 これは、保護者用と子ども用で表現を統一した方がよいですね。

○委員 そうすると、11の選択肢もそうですね、「インターネットで得た情報」も。

○福富部会長 次、3ページはどうでしょうか。

○委員 問11ですが、週一回より少ない習い事というのは「ない」と考えてよろしいんですかね。月2回とか。大人だったら隔週みたいなのがありそうだなと思いますが。

○委員 小学生でもあります。隔週というか月に2回とか。

○委員 中学生でもあります。サッカーなんかは月2回とか第2と第4とか。

○福富部会長 あり得ますね。

- 福富部会長 そうすると月に1回というのはおかしいですか。月に2～3回にしますか。
- 委員 週1回以下ではだめですか。
- 事務局 週1回未満では。
- 福富部会長 「週1回未満」を入れることでいいですね。
- 委員 問11では「あなたは、習い事（塾やスポーツクラブ等）」と書いていますが、塾は習い事なんですか。下の方では、習い事と塾の枠が分かれているのに、習い事に塾が入るので
- すか。
- 委員 項目が「塾」と「習い事」に分かれていますので、「塾・習い事（スポーツクラブ等）」の表現のほうがいいのでは。
- 福富部会長 「塾・習い事（スポーツクラブ等）」にすると、下の項目立てとイコールになるので、事務局はそれでよろしいですか。
- 事務局 わかりました。
- 福富部会長 次、4ページ以降で先ほどの中学生保護者で変更した文言と統一したほうが良いところはそうしましょう。
- 委員 問23-7は、何を目的に聞いているんですかね。これだけ知っているとうごいなという感じがします。
- 事務局 この設問につきましては、前回の部会の際に、有害サイトで被害を受けた時の救済手段のような設問を、保護者の調査票に新設したらどうかとのご提案をいただきました。事務局としましては、保護者は大人なので、特にそのような設問を設ける必要はないと思っております。一方、お子さんのほうは、そういう被害に会わないようにするにはどうすれば良いかを周知する必要があると思ひ、この設問を新たに設けました。
- 福富部会長 親心的に、教育的な意図もあるのだと思います。
- 委員 小さなことですが、問23-7の選択肢7番の「その他」に括弧を付けたほうが良いと思います。
- 委員 7ページの間23-6、選択肢8に「友達の悪口などを書き込んだことがありますか」とありますが、「自分の悪口などがサイトに書き込まれたことがある」という選択肢を追加してはどうでしょうか。選択肢6は「いじめの対象になったことがある」なので、かなり厳しく書き込みされたようなイメージだと思うんですが、ちょっとした悪口を書き込まれたことがあるというようなものも入れてみてはいかがでしょうかと思います。
- 福富部会長 事務局、よろしいですね。

○事務局 はい。

○委員 それは、選択肢6の「いじめの対象になったことがある」とは違うんですね。

○委員 違いますね。

○福富部会長 微妙に違う。

○委員 問23-6は、選択肢10に「その他」とありますが、設問からすると、10は書きようがないと思います。「次のようなことがありましたか」というので、「その他」というのはおかしいと思います。23-6は、設問の意図が書いていないので、例えば、その他欄に「メールをしました」と書いていいんですか。

もし「その他」を生かしたいのであれば、設問に「何か嫌なことがありましたか」とか、そういうことを入れなきゃいけないと思います。

○事務局 その点につきましては、委員から事前にご意見をいただきましたので、私どもで検討いたしました。確かに、本当におっしゃるとおりで、理屈的に「その他」というのはあり得ないと思っております。しかし、普通、選択肢の1番から順番にずーっと見ていったときに、この設問は「これまでに困ったことや嫌なことなど」を聞いているというのがイメージとしてほしい連想できるのではないかと思います。したがって、その他欄の括弧書きに「メールをする」と記載するのは、通常はないだろうと思ひまして、それであえて設問を複雑にするのではなくて、現状のままとさせていただきました。理屈的におかしいというのは承知した上で、このままいかせていただきたいと思ひ、あえて直しませんでしたので、ご理解いただきたいと思ひます。

○委員 了解しました。

○福富部会長 委員のおっしゃるとおり、「メールをしたことがある」というのは、選択肢にはないので書いてもいいわけです。それなら、なくてもいいんじゃないですか、「その他」の選択肢は。

○委員 前回の調査で記入した方がたくさんいるのであれば、あってもいいかなと思うのですが。お任せします。

○委員 あえて、それを入れたければ、「使っていて次のような嫌なことなどがありましたか」にすれば、嫌なことじゃないけど、こんなことがあったという意味で、「その他」は生かせると思ひます。

○委員 何か書いてあっても、別段問題はないわけだから、これはこれで生かしておいて、書きたい子があれば、そうか、こんな項目もあったんだなという程度でいいんじゃないですか。

- 福富部会長 そうですね、大きな齟齬はないですね。
- 委員 はい。
- 福富部会長 では、8ページ、ここはよろしいですか。
- 委員 問24の選択肢がおかしいのではないですか。
- 福富部会長 おかしいですね。近所の方と挨拶するかということについて、4番の「まったくない」に対して「よくある」というのはおかしい。「まったくない」に対しては、「常に挨拶する」ということですよ。
- 次、9ページ以降ですが、11ページの間32については前回話題になりまして、中学生には難しいし、意味がないということで全面削除ですね。
- 委員 9ページの間26の選択肢1ですが、「参加している」というのはおかしいと思います。ここは頻度というか、多さを書かないと。
- 福富部会長 「いつも参加している」とか、そういうことですか。
- 委員 はい。
- 福富部会長 13ページの間35はこれでいいのかな。2番の「いけない」と3番の「場合によってはいけない」はそれほど違わないように思います。
- 委員 選択肢の1、2、3の区別がよくわからない。
- 福富部会長 わからないですね。これは検討しなきゃいけないですね。
- 委員 2がなくてもいいのでは。
- 福富部会長 2はなくてもいいですね。
- 委員 「子どもがタバコを吸う」という設問に対して「場合によってはいけない」、「シンナーなどの薬物を使う」という設問に対して「場合によってはいけない」というのは違和感があります。
- 委員 「場合によってはいけない」ということは、場合によってはいいということもあるのでしょうか。
- 委員 子どもの意識調査なので、仕方がないのでは。
- 委員 選択肢3の「場合によってはいけない」を残して、2の「いけない」を削除するのではなく、2を残して3を削除したほうがいい。「いけない」という言葉には、そういう不備があるかなと思います。
- 委員 「絶対にいけない」と「いけない」の違いはどのくらい違うのか。
- 福富部会長 難しいですね、これは。もう少し2と3をまとめて、何か3つぐらいになるん

じゃないかな。事務局で検討をお願いします。

○事務局 分かりました。

○委員 「援助交際」という言葉はまだ生きていますでしょうか。

○委員 省略して「援交」という言葉はあります。

○委員 今は違う表現がありますよね。

○委員 そうですね。何か思い出せませんが、もっときれいな言葉でずるい表現があります。

○福富部会長 中学生には伝わるんですね、この表現で。

○委員 はい、伝わります。

○福富部会長 それでは、最後、14ページ、いいですか。これも比較ですね。

○委員 すみません、全体を通してなんですけれども、選択するときに、「○はひとつだけ」の「ひとつ」が、5年前は算用数字で、今回は平仮名になっているのはわざとですか。

○事務局 はい、今回の就学前児童保護者向けと小学生保護者向け調査票をそう表記しており、それにあわせたということでございます。

○委員 番号の並び方なんですけど、問5の選択肢だけは数字が横並びで、ほかの設問は全部選択肢が縦並びなので、揃えていただきたいです。

○事務局 確かにおっしゃるとおりですし、分かってはいるのですが、就学前や小学生が、実はこれと同じスタイルになってございます。横が極端に長く縦が短いと、横並びの方が見やすいように思います。感覚の問題だと思っております。

○委員 では、いいです。影響がないので。

○委員 問27ですが、「自宅でひとりで過ごす」「自宅で兄弟姉妹や家族と過ごす」「友だちの家で過ごす」とあって、「友だちの家で過ごす」というのは友達と遊ぶという意味だと思うのですが、「自宅で友だちと過ごす」という選択肢がないんですね。

○委員 それはあり得ますね。

○委員 うちも、家に来ていただく場合が多い。

○福富部会長 「自宅で友だちと過ごす」という選択肢があってもいいですね。

○委員 今の設問で、「自宅で兄弟姉妹や家族と過ごす」とありますが、兄弟姉妹も家族じゃないんですか。

○福富部会長 「自宅で家族と過ごす」でいいよね、これは。

○委員 あえてやりたければ、「家族や友だち」とするかですね。

○福富部会長 一応、分けましょう。家族と過ごすのと、友達と過ごすのと、どちらが多いか

というのも分かりますので。だから「家族」でいいですよ、ね、「自宅で家族と過ごす」にしましょう。

○事務局 はい。

○福富部会長 それでは、次、資料4、青少年に移ります。

○委員 先ほどから気になっていたんですが、「普段親とどの程度話をしますか」という設問で、「学校や塾、習い事」というふうに、学校も塾も習い事も1つになっているのですが、私のところはまだ小学生なのですが、小学生だと学校の出来事と習い事の出来事というのは話が違うのですが、大きくなると一緒なのかなというふうに思いながら見ていましたが、中学生以降のことはよくわからないのですが、学校と塾・習い事に分ける必要はないでしょうか。

○委員 小学校、中学校は、逆に一緒にいいかなと思います。塾は、同じ学校の子どもたちが通っていたり、地域にまとまる傾向がありますので、それを分けるとすれば逆に難しいかなと思うんですが、高校生の習い事の場合、原則として家とは距離がありますので、全く違う人たちと接することになると思います。だから、別々のことというふうに考えられると思います。

○委員 でも、小学校でも、離れた学習塾がありますし、それこそ電車で通ってサッカーを習いに行っている子もいます。なので、やはり学校は学校の話題というか、そういう問題があるのではないかと思います。学校と塾や習い事とは、場所というか、教育環境が違うと思います。一緒にいいなら構わないんですが、ただ小学生を持つ母としては、学校と塾というものを一緒に考えるものなのかなというふうに思ったんです。

○委員 今の方の意見に賛成で、学校というのは、自分の学年だけじゃない。つまり1年生から6年生までいる。塾とか習い事は、基本的には同じ学年が多分多いと思うので、やはり考え方は全然違うように思います。やはり学校は学校で、塾と習い事は多分一緒でもいいのかなとは思いますが。

○委員 不登校とか言われているものは、要するに学校に不登校ということですよ。でも塾には通っている子はいると思うので、別物なのかなというふうに思ったんです。

○福富部会長 場所的にも意味的にも学校と塾とは違うと思うんですよ。けども、それを話題にするかどうかという次元で考えたときに、あえてそこまで分けなければいけないのかなという気もするんですね。

○委員 でも、学校はつまらないけど、塾はすごく楽しいという場合もあります。

○**福富部会長** その場合は選択肢の1番でいいのではないですか。分けちゃうと、学校だけの話、塾だけの話というふうに、逆に区分けすることが難しくなりませんか。経年的に比較したい場合も起こってきますから、できるだけ同じにしておいたほうがいいように思います。でも、これは事務局で検討をお願いします。

では、次に6、7、8ページですが、「コミュニケーションツールについて」のところでインターネットで有害サイトにアクセスして被害に遭ったという場合のその被害というのは、経済的な被害だけではないですよ。特に、出会い系サイトの場合の被害というのは、金銭が発生するというような被害と、それから実際に身体的な被害を受けたという場合もある。

○**委員** 問20-2というのは、有害サイトにアクセスして被害に遭ったことが「あるか」「ないか」だけでいいんですかね。問20-5のインターネットを利用している方への質問では、「会ったことがない人とメールやLINE等のやりとりをしたことがありますか」とあり、「ある」「ない」だけで質問を切っちゃっていますが、この設問は問20-2とセットなのかなど思ったりもしています。例えば、会ったことがない人とメールのやりとりをして、その後、その人と会ったことがあるということになると、出会い系サイトではないけど、同じ問題が起きている可能性があります。

○**委員** 問20-5で「ある」とつけた人は、それによって何らかの被害を受けていることもありますよね。

○**委員** 問20-6で設問があるので、何か被害にあった人は、ここで答えるチャンスが一度ありますね。

○**福富部会長** 事務局の検討課題とし、次に8ページ、9ページの「授業や仕事以外の過ごし方について」に進みます。

○**委員** 中学生保護者向け調査票で変更した文言は、中学生本人でも全て反映されると思っていいんですよね。

○**事務局** はい。

○**委員** インターネット云々の後に括弧を付けるとか、そういうのも全部直るんですね。

○**事務局** そうです。

○**福富部会長** 基本的に、同じ質問は全部同じ選択肢に統一すると比較できますね。

それでは、9ページ「子どもを守る取組みについて」、10ページ「進路や就職について」、11ページ、12ページ「将来の結婚や子育て・社会全般について」で、なにかありますか。

○**委員** 問30の選択肢の5番、「結婚したら、子どもを生んだほうがよい」というのは、これ

は女性だけが答えることですか。

○事務局 夫婦です。

○委員 「つくったほうがよい」ですかね。

○委員 一瞬、女性だけの質問かなとつい思いました。

○委員 問30の3番と5番は、どう違うんでしょうか。似たような内容に思えます。「結婚しても、必ずしも子どもを生む必要はない」という設問と、「結婚したら、子どもを生んだほうがよい」は、同じような内容に感じますが。

○福富部会長 3番と5番は同じなのかな。

○委員 「生む」ではなくて、「子どもを育てる」とかに変えてはいけないんですか。生めないけど、育てている人は結構いるんです。

○福富部会長 高校生の考えだから、青少年、若者意識になると、こういう質問というのは、微妙に、差別につながってくる危険性があるんだろうと思うんですね、子どもをつくりたくてもつukれないという方々が多々いるわけで、そういう人たちの配慮をしなければならないと思います。「生む」という表現は変えたほうが良さそうですね。夫婦で子どもをもうけるとか、夫婦で何かをするという文言にしてはどうですか。3番と5番は確かに言われてみると同じですね。

○委員 自分でこの設問を回答したとき、両方、上位のほうに丸を付けたんですよ。だから、価値観みたいな調査だとしたら、両方あってもいいかなと思いました。

○福富部会長 意味が違うので、両方あってもいいということですか。

○委員 はい。

○委員 必要はないけど、生んだほうがいいよという意見なんですね。

○福富部会長 要するに、3番も5番も、両方とも「そう思う」に丸を付けるということは、ありなんですか。

○委員 はい。

○福富部会長 理屈上、矛盾しませんか。

○委員 いえ、結婚したのであれば、要は、子どもができる条件があるのであれば、これは大人の感覚かもしれないんですけど、つくれるんだっいたらつくったほうがいいけれども、つukらないからといって、それを否定するということにはならないよということだと思います。

○福富部会長 なるほど、わかりました。では、このまま両方聞くことにします。

○委員 結婚しても生まれない条件もあるので、そういう結婚を否定することはないというの

が質問に含まれるようにしないといけないと思います。

○福富部会長 そうですね、難しいですね、ここは。差別に結びつかないよう、慎重に項目を作らなきゃいけないところだと思いますので、検討課題としましょう。

○委員 問30の選択肢の8番に「子どもが3歳になるまでは、家庭で育てる方がよい」とあります。以前は「母親が家庭で育てる方がよい」となっていたのを「家庭で」に変更したみたいですが、多分、父親が育ててもいいんじゃないかということで変えたんだとは思いますが、以前の設問の趣旨と何となく違うように感じます。

○福富部会長 母親が育てるというのと、家庭で育てるというのは違いますね。

○委員 以前のほうが設問の趣旨はわかりやすいですね。

○福富部会長 以前のほうは、3歳児神話というのに結びつく質問でしたが、これは違いますね。

○委員 別に、おじいちゃんとかおばあちゃんでもいいように読めます。

○福富部会長 この設問は前回この会議で議論しましたでしょうか。

○事務局 いえ、この設問は区で独自に変えさせていただきました。

○福富部会長 そうですか、ニュアンスが変わってしまいましたよね。

○委員 前の「母親が家庭で育てる方がよい」の「母親」の後ろに「(父親)」と書いたほうが、より以前のニュアンスに近づくように思います。

○福富部会長 確かにそうですね。

○委員 そのほうが以前のニュアンスが伝わるとし、女性だけが育てるというふうな質問にはならないと思うんです。

○福富部会長 これはまさに3歳児神話なんですよ。要するに、3歳までは、親が育てなきゃいけないということが、ある意味ではワーク・ライフ・バランスみたいなものに微妙に影響しているという状況がありますから、そこを聞いたかったわけでしょう。こうなってしまうと、ニュアンスが違ってしまいますよね。

○委員 他に、前回は設問の3として、「別々の名字のままにすることも構わない」というのがあったんですが、この設問は区のほうで消したんですか。

○事務局 削除させていただきました。なお、先ほどのご意見については検討させていただきます。

○福富部会長 夫婦別姓問題ですね。微妙な問題があるようですが、ぜひ復活させたいという思いはありますか。

- 委員 一応確認しただけですので別にいいです。
- 福富部会長 次、12ページ後半から、13ページ、14ページで何かありますか。
- それでは、一応、最後にまた戻ることもありにして、最後、資料5の若者の調査票に移ります。「日常生活」の項目は2ページから4ページにまたがっていますが、何かありますか。
- 委員 問8の「一緒に遊んだり話をする友人が何人いるか」という設問は、聞く意味がどれほどありますか。
- 委員 社会性に関する調査ですか。
- 福富部会長 問8-1で、「悩みごとを聞いてくれる人がいる人」に対して、それは何人というの、ここまで聞く必要はありますか。
- 委員 聞く必要はないと思います。
- 委員 細か過ぎる。
- 福富部会長 細か過ぎますよね。「いるか」「いないか」でいいと思いますが、どうですか。
- 委員 何となく、結局、同じ人のことを思い浮かべているような気がします。
- 委員 問8-1の選択肢の1、2、3、4は、結局全部答えは同じになりそうですね。
- 委員 ソーシャルサポートの話だと、メンタルな面は結構入っていますが、お金のことなどのサポートは入っていません。もしこんなに4つも詳しく聞くのであれば、違う種類の選択肢を入れてもいいんじゃないかと思います。例えば、お金を貸してくれるとか、仕事の相談に乗るといような、何か道具的なサポートです。でも、必要ないのであれば、そっちは置いておいてメンタルだけでもいいのですが、それにしても4種類も要らないと思います。
- 福富部会長 いらないね。これは区分けできないよね。
- 委員 全部「いない」に4回丸を付けるのは、あまりにも暗過ぎてつらいです。
- 事務局 この設問は新設ですが、委員からご指摘がございました点を踏まえて、検討させていただきます。
- 福富部会長 これは削除も含めて検討してください。
- 委員 問9なんですけど、「あなた」と「配偶者・パートナー」の選択肢の5番で、一方が「学生」で、もう一方が「学校」になっているのは間違いですか。
- 事務局 そうですね。「学生」に統一します。すみません。
- 福富部会長 3ページの間10ですが、「知っているか」「知らないか」というのと、「利用したことがあるか」「ないか」とは別なので、分けなければ論理的におかしいですね。もしここで聞くとすれば、知っている人に対して、利用したことが「ある」「ない」というのは

あり得るけれども、知らなくて利用したことがあるというのはおかしいですね。だから、横の段は工夫しなければいけない。この設問は、区として必要な質問なので、知っているか、知っていないか、それを利用しているか、していないか、知らないから利用していないのかどうかということを区分けしないとイケないですね。知っていて利用しないということは、それなりの意味があります。行政にかかわる問題ですね。

それと文章が読みづらいですね。問9－3は文章が縦書きになっていて、問10は横書きになっている。統一されていないですね。

○委員 横書きのほうが読みやすいですよ。

○福富部会長 読みやすいですよ。すべて統一するというかたくなじゃなくても、今のままだと少し読みづらいですよ。読みやすさを考えてどっちかにしてください。

○事務局 はい。わかりました。

○福富部会長 3ページ、4ページにかけての「※」の部分の、各施設の説明はあえて記載するわけですね。

○事務局 はい、そうです。

○福富部会長 あとよろしいでしょうか。では、先にいきましょう。5ページの「保健に関する情報や教育」はいかがでしょうか。

○委員 問15で、突然「飛び込み出産」の設問が設けられていますが、何か目的や意図はあるのですか。

○事務局 調査票案を作成するにあたっては、関係する所管のところに意向を確認するんですが、この設問については、健康部から、こういう設問を設けたいという意向があり載せた次第でございます。

○委員 未受診の方というのは原因が本当にいろいろで、一般の方に聞いて改善する手だてが何か見つかればいいんですが。ただ、理由として記載されている選択肢についても、この項目では少ないかなという印象ですね。

○事務局 例えば何か具体的にございますでしょうか。

○委員 実際に妊婦健診などが無料化されていても未受診があるということは、経済的な理由ではない何かがあると思います。例えばそれは、家庭やカップルの間の問題であったり、未婚の問題であったり、公にしたくない場合もあるでしょうし、もしくはリピーターで確信的にやっている人も結構いると思います。そういうのは結局本人に聞かないとわからないという部分が必要にはあると思います。したがって、設問を設けて聞くことは別にいいんです

が、それが本当に役立つかどうかという点では疑問が残ると思います。虐待につながる可能性が高かったり、行政として知りたいというのはよくわかりますし、私も気になっていますけれども、簡単に問いかけて、それを回収するだけでいいのかな、問題としては大きいかなという気はいたします。

○委員 選択肢が少な過ぎるよね。

○事務局 ご意見を踏まえて、健康部と調整させていただきます。

○福富部会長 では次、6ページから9ページまでの「結婚や子育てについて」はどうでしょうか。

○委員 6ページの間17-1の結婚したい理由ですが、単に「好きな人と一緒にいたいから」という回答があってもいいと思います。そういうのが1個入るとほっとします。

○福富部会長 僕もそれを言おうとしたんです。理由なんかなく、「この人と一緒にいたいから」という回答がほしいですね。

○委員 無理やり1番の「精神的に安定する」に含まれるのではないですか。

○福富部会長 安定するからですかね。精神的に安定することとは別に、喧嘩していても一緒にいたい場合もあるのではないのでしょうか。

もっと漠然と、大人としてもう25歳、30歳になったら結婚するのが何となく当たり前だからというので、何気なくしちゃうというようなパターンもあるのかな、わからないけど。

○委員 親を安心させたいという理由もあるように思います。

○福富部会長 それもありますね。

○事務局 「一緒にいたいから」及び「親を安定させたいから」の選択肢を追記する方向で検討します。

○委員 7ページの間18ですが、選択肢の4と5は、1の後にしたほうがいいと思います。

「男女とも仕事をし」という選択肢の間に、「男性は仕事」「女性は仕事」と入るのではなく、「男女とも仕事をし」と言う選択肢を続けた方が答えやすいように思います。

○福富部会長 そうですね。

○事務局 そのように変更します。

○福富部会長 9ページの間22の選択肢8ですが、「子どもや子育て中の親に対する社会の温かい目」とありますが、「社会」でいいんですか、それとも「地域」では限定し過ぎですか。

○委員 「社会」のままでもいいようにも思います。

○委員 問19に戻っていいですか。シングルの方や離婚している方は、「その他」欄に文章で

回答する形になるのでしょうか。

○事務局 シングルや離婚している方は、この問いには答えなくて結構でございます。

○委員 そうですね、わかりました。

○委員 問19は「結婚していると答えた方にうかがいます」とあるので、結婚している人だけに聞いて、問18はその限定がないので結婚していなくても答えるということですね。

○事務局 そうです。何も注釈がない設問はそのまま流れていきます。問18は、一般論として男女の役割分担について聞いております。

○福富部会長 そうですね。それでは、10ページの「地域との関わり」と最後の11ページはいかかでしょうか。

ざあっと見てきましたが、全体にもう一回、何か気になるところがございますでしょうか。

○委員 中学生や青少年に戻りますが、インターネットとメール等については、子どもたちは概念的に同じものだと考えていないことのほうが多いと思います。ですから「インターネットを利用している時間」は、どこかにアクセスして何かを調べたりすることという認識だと思います。あと、ゲームぐらいはインターネットと思うかもしれませんが、少なくともメールはインターネット回線を通じてやっていますが、LINEも含めて同一のものだと考えている子どもは結構少ないように思います。ですから、インターネットの利用時間を聞いても、あまり利用していないという回答も結構出てくるように思います。

今の子どもにはオン・オフの時間がないように思います。昔は、うちへ帰れば、学校のことは多少忘れて、次の日に向けてまたエネルギーをためるということがあったと思います。しかし、今は24時間、子どもの姿はないけれどもメールやLINEで子どもと親はつながっている。そうすると、子どもにはそれによる圧迫感みたいなものが出てくるし、24時間拘束されていると感じるかもしれません。

○委員 LINEについては、5年単位のこの調査ですと、今回だけの独立調査になる可能性が高いと思っていますが、それでもやったほうがいいかなと思っています。インターネットの利用時間については、LINEやスマホを思い浮かべて回答する子どもはあまりいないだろうと思います。あえてそこには突っ込まなかったんですが、もし聞くとすれば、LINEだけ独立させるのか、メールやLINEというふうに分けるのか、そのときツイッターやフェイスブックはどうするのかなどの問題があり、難しいと思いますので、とりあえず聞いてみるしかないのかなと思っています。

○福富部会長 僕の中では、インターネットとメールは全く同じなんです。メールは、パソコ

ンでしかほとんどやらないものですから。でもそれは、子どもの感覚とはずれていますね。インターネット関係の設問は難しいですね。LINEは別だから別に聞いてみると次回の調査にもつながっていくのかもしれない。一緒にしちゃうとわからなくなる可能性があるから、LINEは別にしておいたほうがいいのかもわからない。

○委員 来年には、LINEはもうないのかもしれませんが。

○福富部会長 来年にはもうないですか。では、この問題については事務局のほうで検討してください。

おかげさまで、一応4つの調査票について審議し、検討致しました。積み残しというか検討事項がありましたので、これについては事務局のほうで整理した後で、また皆様にフィードバックされますか。

○事務局 まだご意見等がございましたら、来週の月曜日までにメールでもお電話でも結構です。事務局のほうにご連絡いただけたらと思います。今月中に修正を加えて固めたいと思っています。これまでにいただいた貴重なご意見をもう一度精査させていただいて、あと、関係部局との調整もあったり、経年でどうしても変えられないものについては、貴重なご意見をいただいておりますが残念ながら変えられない部分もあろうかと思っています。ただ、取り入れられるところは極力取り入れさせていただきたいと考えております。なお、すみませんが、修正を加えたものを皆様方のところに再度郵送することは時間的に多分できませんので、申し訳ございませんが、区の責任校正で修正させていただくということになります。

○福富部会長 そうすると、皆様方とお会いする機会は次回の全体会としての協議会ですね。

○事務局 10月7日です。

○福富部会長 そのときにはもう今日検討した調査票の発送も終わっている状況だと思いますが、今日いただいたご意見は、経年的な比較という調査の制約はありますが、本当に極力受けとめて直せるものは直していきたいと思います。

○委員 会議の最初に回収率が低いというお話がありましたが、私も以前、この調査票が送られてきたことがあります。この調査票に回答しないとどうなるか」というのはあまり感じられないんです。分量が多くて、答えるのに結構大変なんですね。なので、何年に1回こういう調査を行ってこういう結果が出たので、区の施策に反映しましたというようなことが後ろの方でいいので書いてあればいいと思います。自分が答えたことが、施策に反映されているんだと思って協力していただけるんじゃないかと思っています。

○福富部会長 それにしても、信じられないくらい前回5年前の回収率はいいいんですよ。我々

の感覚からするととんでもない数字ですね。今回は少ないですが、これでもいいほうですね。

○委員 でも、なぜ夏休みに調査票を送ったのかというのが疑問です。

○委員 幼稚園児や小学生が家にいてすごく手が掛かる中で調査票が届いても、多分親は手を付けませんね。夏休みというのは、本当にすごく大変です

○福富部会長 タイミングが悪かったですね。

○委員 前回の調査は夏休みじゃなかったでしょうね。

○事務局 11月です。

○委員 前回の調査は、結構、保護者会とかで話題になった気がします。自宅に送られてきた話や、出した、出さないみたいな話を何人かとする中で、回収率もアップするかもしれないですね。

○福富部会長 時間になりましたので、本当に暑い中、ありがとうございました。2回にわたりました部会は無事検討が終わりました。

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局 この起草部会に内包されておりますいわゆる専門部会の開催時期につきましては、当初は12月を予定していたんですが、国が示す計算式などの「作業の手引き」について、当初は8月中に全国の自治体に示すと言っていたのですが、「年内を目途にする」ということに変更になりました。そのため専門部会については、年が明けてからのお集まりになる場合がありますので、ご了承ください。

○福富部会長 皆さん、とても熱心にご検討いただきまして、本当にありがとうございました。

正午閉会